



私は同僚たちと共に、将来に向けての進路を定めるにあたり、個人として借入国をもっとよく知る必要があると判断しました。そこで『貧しい人々の声』と題する聞き取り調査に着手し、希望、目標、現実について、彼らに話を聞きました。

貧しい人々に、生活を変えられるかもしれない最大のものはと尋ねると、何と答えると思われませんか？彼らは自分たち自身の組織があれば政府や商人、NGOと交渉できるだろうと言います。

彼らは、彼ら自身で自分たちの将来を形作ることのできるコミュニティ主体のプログラムを望んでいます。汚職に終止符を打つために、地域社会が資金を管理することを望んでいます。また、彼らに対する説明責任を果たすNGOや政府を求めています。

これらは力強い、威厳ある声です。

—ジェームズ D.ウォルフエンソン 世界銀行グループ総裁
1999年9月28日、年次総会スピーチ